

メープルレター（86）

また戻って来た猫たち

日本並みの蒸し暑い日が続いております。

我が家の前は、相変わらず道路工事が続いております。朝7時ぴったりにブルドーザーや様々の突貫工事の音が響き渡ると、窓をぴったり閉め、冷房をきかせ、工事現場が静まる夕方まで鳴りを潜めて待っている日が始まり3か月になりました。さて、工事の進歩はというと、あちこちに広がるばかりで疑問が湧くばかりです。掘り起こし、埋め立て、また同じ所を掘り起こしが繰り返されていることが多いのです。それでも閉鎖されていた通りのほんの端っこが綺麗になり、開通されたので、進歩しているのかもしれませんが、荒れ果てた工事現場と化した古い一角をおとなしく、指定された迂回路をたどって散歩をする観光客の黒い波が印象的です。

ケベック州はバカンスシーズンにはいりました。バカンスシーズンは、6月24日のケベック州の祝日、7月1日のカナダ建国の祝日をスタートに、7月下旬のブルーカラーの2週間のバカンスを山場に8月半ばまで続きます。その間に色々な形でバカンスをとります。マダム田中もドリトル先生も、バカンスの予定は特になく、バカンスに出かける子供達にこき使われております。

義理の長男は、現在、マルチニク島で1週間のバカンス中です。7月1日に1週間遅れで孫（義理の長男の長男13歳）の誕生日のお祝いをし、その帰りにちゃっかりと猫2匹をドリトル先生に預け（ということはマダム田中が全て面倒をみるということなのですが、）5日後にマルチニクに発っていきました。猫たちは、これから2週間ほど我が家に滞在することになりそうです。亀は、問題が多いからと1匹はペットショップに返し、もう1匹は川辺に置いてきたようです。

「もう亀はいないから。猫だけお願い。バカンスから戻ったら引き取りに行くから。そうそう、猫1匹いない？猫2匹の面倒みるのって大変なんだよ。」

「いないわ。ドリトル先生が猫1匹以上に手がかかるから。」

そうか、面倒になると、何でも厄介払いをするのか、この人は。危ない人だなあ。この日は、孫から料理の特別注文がはいりました。

「おにぎりって言うんでしょ、中に何か入った、あの三角のご飯の塊。あれが食べたい。」

「そうおにぎりよ。わかったわ。他の料理もいくつか持っていくわね。」

そう言われてみれば、以前おにぎりをもっていったことがあったのかもしれませんが、マダム田中は、三角おにぎりの三角があまり得意でなく、握っているうちに丸っぽくなってしまいます。必死で5-6個握りました。この孫が好きなのは、いなりずしと和風の卵焼きなのでそれも作り、他の人達のためにはに握り寿司、巻き寿司、春巻きなども作りました。5人の子持ちなので、それに合わせると料理の量は半端ではありません。孫は、大喜びで食べまくっていました。この子にとってはある意味で、和風の卵焼きは、愛の証でもあったのです。下の妹が生まれると、自分の存在が無くなり、怒られ、疎まれることが多かったのです。この子にもっていった和風の卵焼きは、自分のためだけのものだとわかりほっとする思いだったようです。目をぱちぱちさせて

「僕の？僕だけの？」

「そう。他の人にあげなくてもいいからね。」

この日以来、家の前に立ち、和風卵焼きが来るのを待っていました。両親の離婚があって少し落ち込む時もありましたが、中学生になり、もう大人のようなものです。ひよろひよろと背丈が伸び、くるくるの天然パーマの髪の毛が頭を覆う姿でかがみこみ、卵焼きやいなりずしを食べる姿は、なかなか可愛いものです。この子は一体どんな人になる

んだらう、日本がこの子の頭の中にはこうして和風卵焼きとなって残っていくのだろうか、この子に会う度にそんな思いが巡ります。

次の日は、娘一家をランチに招待しました。日本食の食材がたくさんあり、皆の好きな料理も意外と簡単にできそうでした。ブランチにすると手がかかりそうなので、朝ごはんの分は、近所の日本人のパティシエのお店でおちあい、クロワッサンや美味しい菓子パンとコーヒーですませることにしました。孫娘は、レストランやカフェが好きな社交派なので大喜びでした。たまたま、焼きたてのショートケーキがあり、孫娘はイチゴ、イチゴと必死でほおぼっていました。日本には良くあるショートケーキですが、こちらでは見かけることはないのです。それにしても、この子は楽な子です、なんでも食べたがるのです。ちなみに、フランス人のドリトル先生には、和風のショートケーキはクリーム味が濃すぎるからと、ケーキとしては考えられないようです。フランス人は、一般的に、季節の果物などを使った、糖分控えめの素材の味を大事にするケーキが好みようです。

ランチは、あらかじめ用意しておいたお寿司や炊き込みご飯で簡単にすませ、さほど手をかけることもなく、ゆっくりと楽しい時が過ぎていきました。料理は多めに作っておき、娘がもって帰るのが定番になっています。孫娘は、お腹がいっぱいになると、テレビの前でまったりとくつろぎ始めました。

「トトロを見たい。」

「フランス語？日本語？」

「日本語。」

この孫娘は日本のアニメは日本語で、ディズニーのアニメは英語だと決めてみているようです。フランス語以外は分からないというのに不思議なものです。

こうして日々が過ぎていく中、義理の次男は、ケベック市への引っ越しを来週に控え、大詰めを迎えているようです。

げっそりとした声でドリトル先生に電話がかかってきました。

「引っ越しにこんなに時間がかかるとは思わなかった。業者だから、何もかもやってくれて簡単に1日で引っ越せると思っていたのに、1日は箱詰め、2日目は包装や家具のカバー、3日目にやっと引っ越しだっていわれてびっくりしてるんだ。もうくたくた。」

「それはそうだろうねえ。引っ越してから、収めるのにまた日にちもかかるだろうし。」

嫁ですか、嫁は、娘を義母に預けると、そのまま一人で飛行機に乗り込み、マルチニクに発っていきました。仕事ということですが、本当かなあ。2週間も、なぜこの時期に。。しかも、超豪華ホテルに滞在し、仕事仲間と遊ぶ予定が入っているようです。帰ってくるのは、何もかも片づいた新しい家です。

「アンタそれはないだろう。」

皆がいっせいにあきれ果ててしまいました。

嫁が予定していなかったのは、この時期に、偶然、義理の長男がバカンスでマルチニクにやってきていて、会わざるを得なくなったことです。

「でも、あの人も良い人だし、一緒に楽しい時を過ごしてくるよ。」

と義理の長男は発っていきました。ドリトル先生は、息子を見捨てる嫁や弟をかばわない長男を複雑な思いで眺めております。マダム田中は、気の合わない猫2匹の世話に忙しくしております。